

■開設年度		■開講部局	
2011		共通教育	
■科目名			
環境教育・ESD入門III			
■英語科目名			
Basic Seminar of Environmental Education and ESD III			
■前後期		■開講区分	
前期		毎週	
■科目形態		講義	
■単位数		■大分類（科目）	
2		教養科目	
■中分類（分野）		分野3	
■受講学部学科			
全			
■担当教員		■担当教員所属	
萩原 豪		稲盛アカデミー	
■連絡先（TEL）		■連絡先（MAIL）	
099-285-3757		k6219828@kadai.jp	
■オフィスアワー（授業時間外の対応）			
【オフィスアワー】毎週木曜日3時限目@萩原研究室			
オフィスアワーでの対応については、できるだけ事前にメールでアポイントをとるようにしてください（ダブルブッキングを避けるため）。			
■共同担当教員			
■キーワード1		■キーワード2	
視野・判断力・探求能力		コミュニケーション能力と相互理解	
■授業概要（目的・内容・方法）			
本講義は演習形式で行い、「環境教育・ESD入門I/II」で行った研究活動の内容をさらに発展させていきます。環境問題に関する知識だけではなく、「持続可能な社会」を作るための実践を重視するため、受講生自らが行動をしていってまいります。 〔内容〕本年度は昨年度までの「環境教育・ESD入門I/II」で受講生が提案した「かごしま茶×マイボトル」プロジェクトを中心に行っていきます。これは鹿大生が「お金をかけず、誰でも簡単に手軽に出来ること」を情報発信し、「持続可能な社会」について足下から考えるきっかけづくりのひとつに位置づけます。これには3つの目的を設定しています。 (1)日常生活を見直す：マイボトルを持ち歩くことにより飲料容器等のゴミ削減と環境負荷の軽減について考えるきっかけを与える (2)鹿児島を知る：特産品であるかごしま茶を日常生活に取り入れ、鹿児島の特産品を再認識すると共に地産地消に貢献する (3)地域社会と協働：鹿大生も地域社会の一員である自覚をもって将来世代に対して責任ある行動をとることができるよう、地域社会と協働していく。 これまでに「環境教育・ESD入門I/II」が提案してきたことだけではなく、新しいプロジェクトなどを創造していきます。			
■学習目標			
(1) 環境教育やESDの国内外の動向を理解するとともに、環境問題について多角的な視点から考察していくことができるようになること。 (2) 自分の眼と耳と足で情報を探して作りだし、問題を発見・考察・分析・整理・発表するという社会人としての基礎技術の習得。 (3) ワークショップやグループワークなどの協働作業を通じて、問題認識力およびコミュニケーション力の習得と、積極性や責任感の醸成。 (4) プロジェクトの企画やレポート作成などを通じて情報収集力やITスキル（PCやインターネットの使い方）、文章力やプレゼンテーション力の習得。			

■授業計画（15回に分け、回数、授業内容、自学自習等）

第1回目の授業はガイダンスを行い、各WGの活動目標と今後の活動スケジュールについて明確化してもらいます。その後は以下の流れで進めていく予定です。授業はワークショップ形式で行います（講義とグループワークを組み合わせます）。グループワークについては授業時間外にグループメンバーと連絡をとりあったり発表準備などの作業をする必要が出てくると思います。

- ・ガイダンス
- ・プロジェクト研究活動の報告および実践に対する企画書の検討作業
- ・中間報告
- ・実践活動
- ・研究報告会（かごしま環境未来館）
- ・ふりかえりと報告書作成

〔授業時間外活動〕週末の時間を利用して正規の授業を行うことを計画しています。5月中旬：1泊2日の研究合宿（場所は桜島を予定）。7月中旬：プロジェクト研究報告会（かごしま環境未来館）。時期未定：環境教育施設見学会。これらは火曜4時限目の授業時間数に読み替えます。詳細については第1回目の授業（ガイダンス）でお知らせします。

■受講要件

- (1) 本講義のテーマに関心を持ち、自らが「持続可能な社会」に対する活動を実践したいと思っていること。
- (2) 原則として、環境教育・ESD入門IあるいはIIの履修者、または萩原が担当した科目を履修したことがある学生のみ履修を認めます（履修科目は問いません）。

■成績の評価基準

授業への参加度（授業態度やグループワークへの貢献度、企画運営への参画度など）：60%、課題等提出物（リアクションペーパーやレポート、研究報告会の資料・最終レポートなど）：40%、で総合的に判断します。学期末試験は行いません。

〔注意〕次に該当する場合は評価対象外とします。(1)出席が総授業数の3分の2未満の場合、(2)研究報告会の後に提出する最終レポートの提出がない場合。

■教科書

教科書は使用しません。必要な資料は授業で配布します。

課題作成のために必要な書籍は別に指定します。

■参考書

参考文献として書籍・新聞・雑誌・マンガ・映画・webなど、身の回りにある情報源から日常生活に関することを幅広く取り上げていきます。参考文献一覧は授業中に配布しますが、主たる参考文献として次のものを挙げておきます。

- (1) 阿部治・野田研一監修『あなたの暮らしが世界を変える 持続可能な未来がわかる絵本』山と溪谷社、2007年。
- (2) 稲盛和夫著、鹿児島大学稲盛アカデミー編『稲盛和夫講義集』鹿児島大学稲盛アカデミー叢書1、2010年。
- (3) 今村光章編『持続可能性に向けての環境教育』昭和堂、2005年。
- (4) 日本環境教育フォーラム編著『日本型環境教育の提案』小学館、2000年。
- (5) 東京商工会議所編『環境社会検定（eco検定）公式テキスト（改訂2版）』日本能率協会マネジメントセンター、2010年。
- (6) 降旗信一・高橋正弘編著『現代環境教育入門』筑波書房、2009年。

■その他

〔受講者数制限について〕受講者数は35名以内に制限します。履修登録人数が多い場合は抽選とします。この場合、第1回目の授業に出席した人に優先権を与えます。

〔履修登録上の注意〕本講義は原則として前後期の通年履修を条件としています。専門科目と授業日程が重なる可能性があるため、必ず所属学部の事務室で後期日程を確認してから受講登録をしてください。なお後期履修ができない場合でも、本講義を履修希望する場合、事前に萩原（k6219828@kadai.jp）まで連絡をしてください。何らかの形で活動に参加することを条件に履修を許可することもあります。

〔履修登録について〕履修希望者は第1回目の授業に必ず来てください。履修登録を行っても、第3回目までの授業に出席しない場合、自動的に履修登録を無効とします。